

青森県立田名部高等学校 岩崎 然

私は今回の「高校生による海外エネルギー事情研修会」に参加したことで、エネルギーについて理解を深めることと、自分自身を成長させることができました。

エネルギーについての理解ですが、私はこの研修会に参加する以前から核エネルギーを利用した核融合技術に興味があったので、エネルギーに関する研修会があると学校で知られたときは、是非参加したいと思いました。応募用紙を学校で先生から頂いてからは、選ばれてもいないのに平日は学校の図書館、休日は市の図書館などにこもって原子力関係の本を漁って事前に理解を深めました。学校で僕が選ばれたと聞いたときは本当に嬉しかったです。

事前研修会では東通原子力発電所と原子燃料サイクル施設へ見学に行かせて頂きました。図書館にこもって得た知識だけではやはり足りなかったのですが、職員の方からの説明は比較的理 解しやすかったです。また、職員の方へ直接質問することによって理解を深めることができ、実際に見学することは理解する上で重要だと感じました。

東通原子力発電所では、原子力を使って発電することとはどういうことなのかということを学ぶことができました。それは原子力発電がどういう仕組みで動くかということではなく、原子力発電を行う際に生じるメリット、デメリットという点です。原子力発電は、温室効果ガスを発生させず、ほかの発電方法に比べて少しの燃料で多く発電することができますが、放射線が出てしまうので安全が重視されるなど、原子力を使って発電することはどういうことなのかがわかりました。原子力発電所では、地震や津波への対策が何重にもされていて本当に驚きました。しかしそれは原子力発電所にはそれだけの安全性が求められているのだなと思いました。

原子燃料サイクル施設では原子力発電によって生じた放射性廃棄物がどうなるのか学びました。放射性廃棄物は放射線を出すので取り扱いには注意しなければなりません。また、「再処理するより燃料を外国から輸入する方が安いのですが、燃料を国内で再処理することができれば外国へお金を払わずに国内でお金を消費することができる」と教えて頂きました。エネルギー問題がいかにスケールの大きい問題かわかりました。ここでも原子力発電所と同様に安全対策がしっかりとされていました。国内での研修では、日本が安全対策に力を入れていて、さらにそれがどのように行われているのかも知ることができました。

フランスでは再処理工場の見学とグリニヤール高校の生徒たちとの交流会を行いました。再処理工場では世界中の使用済燃料を再処理していました。ここは、日本の震災による福島第一原子力発電所の事故の後に安全対策を強化したそうです。日本でのあの震災による事故は世界中へ影響を与えたことを改めて実感しました。また、普通では絶対入れないような場所も見学させていただきました。

グリニヤール高校の生徒たちとの交流会では、学校に着いた時、多くの生徒たちが私たちを歓迎してくれて本当に嬉しかったです。また、自己紹介の後にお互いの国についてのプレ

ゼンテーションをしあいました。その後、エネルギーに関するプレゼンテーションをしてディスカッションをしました。ディスカッションで印象に残ったことは、学校で原子力発電所の事故を想定した避難訓練が行われていることです。普通に考えれば事故に関する訓練は行われるものですが、日本の学校では事故の訓練が行われたことがなかったので驚きました。日本でも今後原子力発電が再稼働していくなら、この訓練は行うべきなのではないかと思いました。

スウェーデンでは環境モデル都市ロイヤルシーポートと、フォルシュマルク中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設、フォルシュマルク原子力発電所の見学とカテドラル高校の生徒たちとの交流会をしました。

ロイヤルシーポートでは、雪が降り積もっているにも関わらず、自転車を利用する人が多く驚きました。そこまでロイヤルシーポートでは車の排出ガスを抑えようと努力しているということが感じられました。それはそこで生活している人たち自身が環境へ優しくしようという心で行なっていることが素晴らしいと感じました。ロイヤルシーポートのような環境モデル都市は、そこに住む人の意識から始まるものだと思いました。

フォルシュマルク中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設とフォルシュマルク原子力発電所を見学させて頂いた時に一番印象に残ったことは、安全対策の違いです。国によって安全対策が違うのは当たり前ですが、やはり本で読むだけと、実際に説明を聞いたり施設を見たりするのとでは違いました。日本は地震や津波への対策が主でしたが、スウェーデンの原子力発電所の安全対策は、水が凍らないようにすることやテロ対策などでした。スウェーデンでは地震が少なく、大きな地震は滅多に起こらないそうなので、それだけに他の対策へ力を入れることができると感じました。

カテドラル高校での交流会はフランスとは違い、少ない人数との交流だったので個人の意見を深くまで聞くことができました。彼らは原子力発電に対して良い印象を持っていましたが、彼らの多くは、原子力発電に代わる新たなエネルギーを探した方がいいと考えていました。僕らと同年代なのに、日本語も上手でエネルギーについて関心を持ち、未来のことまで考えていて、意識レベルの差を感じられました。私たち日本人のもっと多くの人は、我々の未来についてもっと考える必要があるなと思いました。

2つの高校の生徒たちとディスカッションをしている中で、エネルギーの「ベストミックス」は各国によって全く異なるものだと思いました。日本では火力を減らし再生可能エネルギーを増やしていくべきですが、電気料金も高くなってしまうので徐々に原子力発電を増やしていくことも仕方のないことだと思いました。また、3.11以降、原子力発電所の安全対策は私たちが想像している以上でした。少なくとも見学させて頂いた東通原子力発電所のことを、フランスやスウェーデンの生徒たちが自国の発電所を信頼しているように私は信頼しています。

この研修会で、私は多くの人の前で堂々と話すことができるようになったり、ほかの国の人と将来について話すことで、自分が将来したいことは何なのか見つめ直すこともでき、自

分の知らないことを知り深く考える場面が多くありました。人は今まで関わったことのない人と接することで成長するものだと実感しました。私はこの研修会に参加するまで、あまり校外行事に参加はしなかったので、学校以外で社会人の方と接することはほとんどありませんでしたが、この研修会で様々な人と接したことにより、意識が変わり成長に繋がりました。この研修会をサポートしてくださった皆さん、現地の通訳の方、そして私自身をサポートしてくださった学校の先生方、家族に本当に感謝しています。本当にありがとうございました。